

第2章 計画の基本的な考え方

1 基本理念

現在の子どもや子育てを取り巻く環境は、核家族化や地域社会の人間関係の希薄化等により、子どもや子育て世代の社会的な孤立が進むと同時に、待機児童問題や子どもの貧困、児童虐待やいじめ、自殺など、さまざまな問題を抱えています。

また、女性の社会進出に伴い多様な教育・保育ニーズが求められるとともに、男性の育児参画の促進も求められています。

そうしたなか、本市では、“こどもファースト”を政策の基本方針として掲げ、「岐阜市次世代育成支援対策行動計画」から継承されてきた以下の基本理念のもと、地域や社会全体で子どもや子育て家庭の支援を推進していきます。

(1) 基本理念に込められた願い

子どもを育てる親の願いは、子どもが心身共に健やかに生まれ育ち、幸せになってくれることです。子どもは親にとっての宝物であると同時に、次の時代をつくりそれを担う原動力となることから、地域や社会全体にとっての宝物でもあります。

そうした“みんなの宝物”を大切に育て、次の世代へと夢をつないでいくというごく自然な社会の営みへと立ち返ることが大切です。

子どもを育てるということは、子どもが自ら学び育つ、生きる力*を最大限に引き出してあげることです。そのためには親をはじめ家庭の関わりが重要であり、その自覚と責任をもって子どもを育て、その成長に喜びを感じることができる、保護者自身も親として成長する“親育ち”を感じられる環境づくりが必要です。そして、それはみんなが子どもや子育て家庭に寄り添い、共にその成長を喜びあえる、そんなぬくもりのある地域や社会があってこそであり、こうした子どもの健やかな成長を支えていく地域や社会の支援が必要です。

子ども自身がみんなに愛されながら育ち、次代を担うひとりの市民として、このまちに生まれ育ってよかったと幸せが実感できることを願い“小さな手と手をつつむ大きな手 ぬくもりのあふれるまち”を基本理念とします。

小さな手と手をつつむ大きな手 ぬくもりのあふれるまち

(2) 持続可能な開発目標 ～子どもが誰一人取り残されないように～

2015（平成 27）年の国連サミットにおいて“持続可能な開発目標（SDGs:Sustainable Development Goals（以下、「SDGs」という。）」が採択されました。そのなかには、貧困や飢餓、さらには気候変動や平和などの広範な分野にわたって2030（令和 12）年までの17のゴール（開発目標）と169のターゲットが掲げられています。その理念は“誰一人取り残さない”社会の実現をめざし、開発途上国のみならず先進国も含め、すべての国や関係者の役割を重視し、経済・社会・環境をめぐる課題に統合的に取り組むこととして合意されたものです。

本計画が取り扱うさまざまな課題は、特に以下のSDGsと関連があります。

本計画に関連するSDGs



SDGs に関連する本計画の基本施策（一部抜粋）	目標（ゴール）
1-1-2 いじめ防止対策の充実	4、5、10、16
1-4-3 子どもの貧困対策の推進	1
2-3-1 多様な教育・保育サービスの充実	4
2-4-1 切れ目のない母子保健体制の充実	3、4
2-6-1 児童虐待防止対策の充実	5、8、16
3-4-2 男性の主体的な育児参画の促進	3、5、8、10

■参考：17の持続可能な開発目標（SDGs）

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

